

# 令和7年度 第1回地域ケア圏域会議パネルディスカッション ～地区におけるフレイル予防活動の継続について～

日時:8月21日(木曜日) 13:30～15:30

主催:きせがわ地域包括支援センター

司会進行:高崎センター長 総括:沼津市社会福祉協議会 井上コーディネーター

参加者:連合自治会副会長、民生委員児童委員協議会、沼津市社会福祉協議会、大岡地区社協、各地域訪問看護師

各関係者発表:大岡団地自会長、地区社協企画委員長、木瀬川(居場所きせっ家)、土肥氏(中石田)、福祉部長、きせがわ病院リハビリテーション科

初めに高崎センター長より、今日までの経過の説明がありました。平成18年度より地域介護予防事業委託を開始、大岡福祉塾・各自治会出前講座、勉強会等開始。令和5年・6年度は、沼津市長寿福祉課主導のフレイルサポーター養成講座・フレイルチェック開始し、並行して地域介護予防教室業務開始。令和7年度よりきせがわ包括主導へ移行との説明があり、高崎センター長の質問に対して、各関係者がそれぞれの立場によっての問題点、取組など経緯を説明。

問題点として、活動場所や活動内容の地域差、サポーター自身の専門知識の経験不足や活動の持続性や担い手の確保が挙げられました。フレイルサポーターは地域住民のボランティアであり、沼津市地域によって活動内容や研修レベルが異なる場合があると思われます。担い手の確保と活動の継続性が問題として挙げられ、**高齢化や担い手不足は共通の課題です**。活動への参加を促進し、活動を継続できるように、活動の評価とフィードバックの仕組みを設けることが必要で、フレイルサポーターの活動がフレイル予防や健康寿命の延伸にどの程度貢献しているかの評価が難しいことがあります。客観的な評価が不足していると、改善や支援の方向性を見いだすことが難しくなります。

フレイルチェックの実施や啓発が主な活動であり、専門的な医療や介護が必要なフレイルケースへの対応は、サポーターだけでは限界があり、きせがわ地域包括支援センターや医療機関、介護事業者など、連携が必要です。

また、今回の地域ケア圏域では、一番指摘されるのは高齢化に伴い担い手の不足が問題です。大岡地区各団体の協力が必要です。大岡地区でのフレイルチェックは中石田・下石田、2回(半年1回)実施。大岡団地、沼平町など継続実施しています。今後、各自治会にも実施していきますので、ご協力よろしくお願い致します。

パネルディスカッション風景



きせがわ包括支援センター長経過報告

